

令和6年度全国高校総体 「審判員報告書」

種目(新体操女子)

審判長 伊豆島知佳 副審判長 谷川友佳子

1. 採点上打ち合わせた事項

事前に資料を配布し各自事前学習をしていただき、当日は対面で映像を使い採点練習を行った。

【個人 クラブ DB】

- ・身体難度は、誤差の確認と手具操作の一致があるか、また映像研修で、操作の重複がないかを擦り合わせた。
- ・フェットローテーションの回転において、回転数や誤差について見解を統一した。
- ・Wは形の確認と、映像研修での評価の見解を統一した。
- ・R(DBのシリーズ)は、受けのタイミングが正しいか、回転が完全か、難度に誤差がないかを確認した。

【個人 リボン DB】

- ・カウント・ノーカウントの判断基準に一貫性を持つことを意識し、1人目から最終演技者まで全ての選手を同じ目線で公平に採点する事を改めて確認した。
- ・悩んだ際には審判研修の内容を振り返り、安全に美しく実施できているかどうかに着目する事。
- ・DBの手具操作の重複、Rの回転グループの繰り返し、フェットバランスの形の繰り返し等は、お互いに注視して書き取りを行うように確認した。
- ・回転を伴うDBのシリーズのRは配点も高く、順位にも大きく影響するため、研修での映像や説明を頭に入れ、受けのタイミングに注意し、難度のアクションに入っているかどうかの見極めを徹底した。

【個人 クラブ DA】

- ・クラブ2本投げの際、両方のクラブが360度回転していること
- ・視野外位置の再確認
- ・DB有効の見極め(特にフェットピボット終了時のDA実施タイミング)
- ・映像研修にて実際に採点し共通認識を行なった

【個人 リボン DA】

- ・ベースの正しい実施方法の確認
- ・螺旋は最低4~5個の輪、蛇形は最低4~5個の波。
- ・ブーメランは放し・引き戻し、スティックを受ける。
- ・視野外の手の位置が垂直線より後ろであるか。頭が前にでていないか。
- ・回転中のタイミングで手具操作が実施されているか。
- ・2個にわたって同じベースが実施されていないか。
- ・基礎手具技術要素の減点の確認

【個人 A】

- ・芸術の採点項目について確認
- ・特徴、エフェクト、ステップ、ダイナミック変化など映像研修で確認をした

【団体 DB】

- ・DB 中の手具操作の重複の確認
- ・コンバイン DB を実施した際の、接続の確認（2 DB カウントになってしまうもの）についての確認
- ・DE の加点についての確認
- ・DE 中の回転要素と、R の回転要素の重複についての確認
- ・W のカウント、ノーカウントについての確認

映像研修で、カウントできるもの、できないものについて目線を合わせた

【団体 DA】

- ・連係が完了してから次の連係が開始されているかどうか注視し、正しい判断ができるように打ち合わせた。
- ・特有の基礎手具技術要素の見落としがないよう、その都度必ず書きとりを行う事を改めて確認した。
- ・CR のシリーズにおいて、1 回転目の回転中に受ける手具が投げられているか、映像研修でのカウント・ノーカウントの判断基準を思い出し、気を付けた。
- ・主要動作のみに目を向けず、5 人全員が関与しているかどうか注目し、広い視野で採点を行う事を確認した。

【団体 A】

- ・「ダンスステップコンビネーション」のカウントの可否について、映像研修をもとに見解の確認を行なった。
- ・「ダイナミックな変化」「身体と手具の効果」では、変化やアクセントが行われた場面および回数に注意して、確認を行なった。審判長からのアドバイス等も参考にし、理解を深めた。
- ・音楽の選択・動きの大きさや強さ・表現や振付が豊かなもの等、採点規則を理解した上で構成・パフォーマンスされている演技には高い評価を与えることが必要である。

【個人 E・団体 E】

事前の審判研修資料と前日・当日の映像研修に基づき、ルールの確認を行った。具体的には映像研修を行い、採点し、落下、移動、DB、DA、徒手の減点箇所を確認した。身体の動きの技術減点は特に DB の減点 (0.1 0.3 0.5) の見極め、重心の高さ、かかとの高さ、膝・つま先の美しさ等、選手の質の見極めについて確認した。手具の技術減点については移動の減点 (0.1 0.3 0.5) の見極めを確認し見解を統一した。注意点としてはプレアクロバットの形の不完全な動きまたは大きさに欠ける 0.1 の減点と R 中の不正確な身体部位の減点 (そのつど) の仕方を確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

Rのカウントや、難度中の手具操作が甘い、タイミングが合っていないことでノーカウントとなり、少し見解が離れたときに確認をし、芸術は評価が離れてしまった時に、作品の柱となるテーマがどれだけ演技として構成されていたかの確認を行った。

実施では落下や移動の目に見えたミス以外の、質の評価で見解が離れることが合ったため、確認を行った。

【個人 クラブ DB】

- ・コンバイン難度において、フェットバランス後のバランスの静止が不足しており、ノーカウントになることがあった。また接続においても、正しく実施されていない場合には、実施された技術に応じてカウントの可否を判断した。
- ・採点規則に基づいて、Wが不足している場合には見解の確認を行い、減点を入れた。
- ・Rの滝状の投げについて、タイミングが不正確な実施があり、投げの加点についてカウントの可否を確認した。

【個人 リボン DB】

- ・頭の周りでの持ち替えの際に、持ち替え位置が高く、手具操作が成立せず、DBが無効となるケースがあった。特に、フェットピボット中にそのような実施が目立った。高すぎていないか、何かの周りで持ち替えているかをポイントに判断した。
- ・イリュージョンのシリーズのRにおいて審判間に差異が出た場合は、研修を振り返り、受けの際に動脚が上がっているかどうかを判断目安にした。
- ・ローテーション難度中に図形が引っ張られてしまい、4～5個を明確に描けていない選手が多く、図形が理由でDBが無効となるケースが何度もあった。しかし、持ち替えや回旋など、図形でない操作で構成されている作品もあり、DBの手具操作の選択が演技構成の時点で重要だと感じた。
- ・手具操作の重複が数件あり、その多くはフェットバランスまたはDBの波動(甲座りや脚を揃えての波動)で実施した手具操作を再び他のDBで実施するケースだった。見落としの無いよう、その都度審判間で確認を行った。
- ・DBの判断に迷った際は美しさが根底にあるか、安全に正しく実施できているかを基準にした。

【個人 クラブ DA】

- ・点数が離れた時にどの部分で離れているか確認し、そのDAの実施度合いについて確認し合い共通得点を決定した
- ・2本投げのうち、1本が回転不足になりノーカウントなるものがあった
- ・DB中に実施するDAの基準(足下、視野外)が不正確なものがありカウントできないものがあった

【個人 リボン DA】

*カウントできなかったもの

- ・視野外、足下での操作の手の位置が不明確、螺旋・蛇形が正しく実施されてない。

- ・回転中の螺旋・蛇形が正しく実施されていない。
 - ・垂直軸は 360 度に満たない回転不足での実施。
 - ・DB中におこなう視野外・足下での手の位置が不明確、螺旋・蛇形が正しくできていない。
 - ・DA中のDBの不明確さ。
- *エッシャペの実施がわかりにくく持ち替えのように見えた選手は基礎手具技術要素の減点を入れた。

【個人 A】

- ・落下した選手の時に、減点しきれなかった時があり、審判長から確認をしていただき、減点の項目についての確認をしていただいた。全員納得で採点について確認することができた。
- ・音楽にテンポがあるが羅列の作品になってしまっている選手、特徴・ステップなどの評価が離れてしまう選手の時に、何度か点数の確認をしていただきました。

【個人 E】

今大会は落下ミスが多く、1.0の減点場面が多々あった。DBではジャンプのそり・開脚度が不十分なための減点があった。また、ジャンプの向きが気になる選手が複数名いた。難度の形が審判席から認識できないため悩んだ。バランスは「最低1秒間の形の保持がない」-0.3の実施減点に加え、胴の水平後屈や水平側方を伴うバランス難度は形が不正確なものがみられた。手具の基礎技術の減点も多く、クラブでは不正確な風車の減点、リボンでは図形の乱れ・不正確な操作等、DAを入れた演技構成が実施では減点につながってしまうケースも多かった。Rは手具のさばき、処理の仕方に上位層と下位層では差が見られた。

【団体 DB】

- ・ドゥバンフェツテ中の操作が不明確で、点数が離れることがあった。
操作のタイミングを確認して回転数を確認した。
- ・DEのラージについては、高さ、距離を明確に実施するチームが多く点数は離れなかったが、受けの加点が、5人全員が正しく実施できておらずカウント、ノーカウントの確認を行った。
- ・W減点がほとんどのチームに入ってしまった。

【団体 DA】

- ・前の連係が完了していない時点で次の連係が開始されるケースが数件あった。前の連係の投げの高さなどの影響により、イレギュラーにそのような実施になってしまう場合もあるため、常に注視しておく必要があると改めて感じた。
- ・特有の基礎手具技術要素が構成上入っている場合でも、直前のミスにより5人全員で実施できず、減点を与えるチームが複数あった。
- ・複数投げにおいて、高さ・距離の両方が不足しており無効となるケース、2つの手具が180°反対方向に投げられておらず無効となるケースがあった。しかし、上位のチームはそれらの条件をクリアし、さらに手以外、視野外、脚の下、の追加要素も組み込んでおり、D得点に差が出る部分だと感じた。

・CRにおいても同様に、上位層のチームは手以外、視野外、脚の下、通過、シリーズなどの追加基準を確実に実施し、1つ1つの連係で高い価値点を獲得した。構成上は入っていても追加基準を予定通りに実施できていない、1人しか実施できなかった、など様々な理由で追加基準が無効となるケースがあった。差異の出た箇所は演技後すぐに審判間で確認した。

【団体 A】

・多くのチームにミスがあり、それに伴う「共同作業」の欠如があった。また「特徴」についても作品は良いが、大きな落下・移動等が複数回重なるチームがあり、評価に躊躇する場面が頻発した。
・「良い作品には良い評価を」と確認していたが、4名の間接点であまり差がつかない採点もあり、評価の確認をする機会をいただいた。

【団体 E】

団体も残念ながらミスが多く、落下、場外の1.0減点が多かった。移動が多く、また受けて抱え込む(-0.3)場面も多々あった。転がしが跳ねる、2部位の転がしが短く不正確な選手やチームもあり、フープの基礎技術を丁寧に行う必要があると感じた。DBに関しては5人のレベルにあったものを選択していないチームは減点が入り、ノーカウントになっているケースがある。Wもほぼ0.1の減点があった。5人全員に減点が無いというのはなかなか難しい。

3. その他特記事項・意見・感想等

【クラブDB/団体A 神野未来】

今大会に審判員として参加させていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

インターハイに審判員として参加させていただくのは初めてでしたが、高校生の一瞬一瞬にかける情熱と観客の声援や歓声が一体となり、何度も心が震える場面がありました。この経験を糧に、今後さらに採点の研鑽に努めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、開催地である福岡県の先生方、全ての役員の皆様、高体連の皆様に感謝申し上げます。暑い中準備から運営、片付けまで細やかなご配慮をいただき、本当にありがとうございました。

【リボンDB/団体DA 積光千里】

この度は、全国の高校生達が目標とするインターハイという大舞台での審判の機会を頂き、心より感謝申し上げます。

審判長伊豆島先生の初日のお言葉にあったように、選手たちは新体操に全てを懸けて、命を削る思いで練習を重ね、この舞台に立っているという事を心に留めて、審判席に着かせていただきました。そして、選手たちの出すエネルギーを肌で感じながら丁寧に採点することを意識しました。目の前の選手達の1演技1演技を採点する中で、その裏側にある沢山の努力や成長をイメージできる審判員でありたいと強く感じました。

また、どのパートを担当させていただく際にも、新体操の普遍的な部分である『美しさ』を評価できる目を養っていけるよう、自己研鑽を重ねてまいります。

大会を運営してくださった開催地福岡県の皆様、高体連の皆様、深く御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

【クラブ DA 羽根井洋美】

インターハイという高校生にとって集大成となる大舞台で審判をさせて頂き、本当に光栄でした。開催県の皆様のお心遣いと運営のスムーズさに助けられ審判に集中することが出来ました。多くの方の思いが詰まったインターハイ、本当にお疲れ様でした。このインターハイに携われたことに改めて感謝申し上げます。

【リボン DA 松尾尚子】

多くの選手が視野外、足下、回転中に DA を実施していますが、正確に実施している選手は視野外、足下の手の位置が明確でとてもわかりやすく、回転もはっきりしており、螺旋・蛇形も正確に描かれていて見やすかったように思います。不正確に実施する選手との差がはっきりしていたように感じました。

審判長、副審判長には事前研修からわかりやすく研修していただき大変勉強になりました。

3日間、本当にありがとうございました。

【団体 DB / 個人 A 牟田樹】

今大会に審判員として参加させていただきましたことに心より感謝申し上げます。

高校生の熱い戦いに、思いが溢れる姿に胸が熱くなりました。団体では、テーマを持った作品が多く音楽を尊重する工夫が感じられました。DB に関しても全国選抜と比べると、レベルが上がっており、仕上がった作品のチームも多く、高校生のレベルの高さ、良さを改めて感じさせていただきました。個人では、曲の特徴を選手自身が表現できていない、羅列になってしまう選手もいましたが、個々の能力に合わせ、どの選手もここまでの努力が伝わるものでした。

開催県である福岡県の先生方、全ての役員の皆様、高体連の皆様には準備から運営、片付けまで細かなご配慮をいただきまして感謝申し上げます。そしてこのような大会に審判員として貴重な機会をいただけたこと深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

【個人 E / 団体 E 小嵯さゆり】

競技の2日間、緊張感を持って採点業務にあたりました。審判員として参加させていただき、全国の高校生たちの迫力ある演技とエネルギーを肌で感じる貴重な経験をさせていただきました。全体的にはミス・落下が多く、本来の力を発揮できなかった選手やチームがあり残念な場面もありました。個人・団体ともにルールを熟知し、上位層は攻めの演技構成でした。特に団体演技は投げ受けに加点要素を伴い、つなぎもギリギリのためリスクが高くミスが多かった印象です。選手が手具を見失う、場面転換を急ぐあまり手具を最後まで追うことができず落下、構成要素をこなす為に丁寧さに欠ける手具操作になってしまうなど、気になる場面がありました。しかし、全体的を通して出場した選手たちはインターハイの舞台上で最後まで表情豊かに自分たちの演技を踊り切りました。真剣な眼差しを通して熱い思いが伝わってきて、感動しました。

終わりにりましたが、大会開催にあたりご尽力いただきましたすべての方々に感謝致します。特に開催地福岡県の役員・補助員の皆様、準備・運営・後処理までありがとうございます。また、全国高体連体操専門部の先生方、審判業務を支えて頂いた日本体操協会審判本部の皆様、ありがとうございます。

【副審判長 谷川友佳子】

まずは、今大会副審判長として参加させていただきましたことを心より感謝申し上げます。

全国の高校生が目指し、高校生の集大成の一つとも言えるインターハイで、副審判長という役割を担うことは大変緊張感がありました。大会期間中は選手、チームに向き合い、実施された演技に対して、公平公正な採点を心掛けました。各審判員・関係者の皆様のお蔭でスムーズに進行でき、無事に終えることができホッとしています。

現行ルールの最終年でもあり、中にはレベルの高い選手やしっかりと作り込まれた作品もあり、上位の選手、チームからは、難度以外でもしっかりと点数を取るという意気込みを感じました。高校生であっても日本のトップと遜色ない作品がいくつか見られました。しかし、難しいことに挑戦するが故に目に見えてわかる実施ミスや、正確性の欠如もあり、個人では2種目、団体では1本の通しでやりきる力がまだ足りていないこともあったと感じました。来年以降新ルールとなりますが、引き続き難度と芸術、実施をバランスよく高いレベルで実施することが求められるため、本番で出し切る力が備わってくると、インターハイが更に盛り上がっていくのではないかと感じました。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり福岡県の役員の皆様、高体連体操専門部の皆様、その他関係の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。そして改めて、このような大会に審判員として 貴重な機会をいただけたこと御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【審判長 伊豆島知佳】

昨年に引き続き、インターハイの審判員として参加させていただけたことに、心から感謝を申し上げます。また、今大会の開催にあたり、新しいシステムの導入など沢山の関係者様の御協力や工夫によって試合が開催されたこと重ねて感謝申し上げます。

個人競技では国際大会に参加している選手も参加し、1つのミスも許されない緊張感のある大会となりました。各地域から勝ち上がってきた選手1人1人が決意を持ち、普段の練習で創り上げてきた作品をこの大舞台で踊り上げることの難しさと、そこへ挑戦していく姿に感動しました。ミスの出てしまった選手の多くに、手具の近さや投げ時の姿勢の悪さがありました。手具操作のミスの元のは姿勢や四肢の使い方に見えるように見えたので、今後更に新体操の基本を正しく行うことが必要だと感じました。

団体競技では、3年目となったフープ5の種目でしたが、残念ながらミスの多い大会となってしまいました。結果的にはそのようになってしまいましたが、各チーム音楽選びから今ルールを意識していると感じましたし、個性のある作品も増えたと思いました。ただ、同時期に開催されていたオリンピックでは各国が特色ある作品、1度見たら忘れられないような瞬間が演技の中にありました。来年からのルールでも引き続き芸術も重要であることを考えると、実施力に加え構成力は更に工夫が必要だと感じました。

最後になりましたが、開催県の皆様、高体連専門部の皆様、その他関係者の方々に心より 感謝申し上げます。改めまして、今大会に審判員として参加させていただくという、貴重な機会をいただけたことに御礼申し上げます。本当にありがとうございました。